

ハイタッチ、握手、続けたい

園長 小島 澄人

挨拶、やはり挨拶は大切です。門に立って子どもたちを迎える、これも大切です。44年続けてきた門での挨拶、しばらく握手を控えていたら門に立てなくなり、しっくりきませんでした。今年度は握手を始めようと思い、門に立ち、いざ手を出す、子どもたちの手が出てきません。4月、それでも一人ひとりに「握手でお迎え」を、と頑張りました。お母さんは「あっ、タッチよ」、あるお母さんは「園長先生と握手出来たよ」、「すごい！握手出来るんだ」と、様々でした。繰り返し繰り返し、毎日門での挨拶に子どもたちとの握手を試みました。ある日、腰が痛くて、歩くのがやっとでしたので、門に立たないでいたら、小さな三歳児の女の子を連れて職員室にやってきた先生がいました。「園長先生と握手が出来ないので泣いています」、顔を見ると、本当に涙がこぼれています。握手をすると、女の子はにこり、として笑顔になり、ハイタッチをしました。あの笑顔が忘れられません。

30年程前のことですが、柿の実幼稚園に来園したある大手の会社の社長さんが、園内に入ると大きな声で挨拶が飛び交っていたのに、びっくりして会社に帰り、社員向けの新聞にその記事を書いたようです。お客さんにも挨拶、子どもからも挨拶、先生からも保護者からも挨拶されたようです。勿論、園のあちこちで挨拶が飛び交っていたのです。そして子どもも先生もいきいきして目が輝いていたとか。挨拶は、家庭でも、幼稚園でも、世の中でも、大切です。挨拶が飛び交う幼稚園目指して頑張ります。

タケノコの豊作、園にもたくさんタケノコが掘れました。先生のクラスだよりを読みますと、子どもたちとタケノコ探しに行き、みんなで掘り、皮を一枚一枚剥がしてみると、30枚もあったようです。子どもから「あつくなかつのかな」、「すごい！」と、驚いたようです。美味しく調理して食べたようです。

ホールに用がありあがっていくと、一人のお母さんが声を掛けてきました。ニコニコしています。何かビニール袋を2枚持っています。よく見ると、タケノコの皮が入っていましたが、大事にしていました。「子どもが、たからものだよ」といっていた、とのこと。そのお母さん素敵な顔をしていました。先生がみんなに配ったのか、お子さんが大切にされたのかわかりませんが、有難い光景でした。その皮は、タケノコが竹になって伸びた時、節の一つ一つになり、大きな竹になります。皮の数だけ、ぐんぐん伸びていきます。私が小さい時、その皮につつまれたご飯がおいしかったのを覚えています。皮はご飯を詰めたり、お餅を詰めたり、また保温の役割もしていました。

まだまだ、タケノコは出てくると思います。ふきも出てきます。門の前での販売は「絵本充実資金」として、絵本を買うことにしています。これまでどれだけの絵本が子どもたちのもとにいったかわかりません。

挨拶、お互い気持ちいいものです。明るくなります。元気が出ます。よろしくお願いします。